

## 四万十市(高知県):中村まちバス

### ITS の技術を活用したデマンドバス

人口	37,917 人	モード	コミュニティ バス
面積	632.50 km <sup>2</sup>	法令	道路運送法 第 4 条
人口 密度	59.95 人/km <sup>2</sup>	運営 主体	四万十市



#### ■ 取組の背景

##### 地域と交通の状況

- ・ 四万十市は高知県南西部に位置し、平成 17 年 4 月、旧中村市と旧西土佐村が合併して誕生した。このうち旧中村市は「土佐の小京都」と呼ばれ、格子状の道路網を持つ。
- ・ 旧中村市では、自家用車の普及が進んだことに加え、市営バス路線は迂回が多く、乗車や待ち時間が長いことを理由に利用者は減少していた。

##### 【公共交通の利用者減少】

##### 活用メニュー(制度・協議会等)

- ・ 旧中村市は ITS 関連 5 省庁(旧通商産業省、旧運輸省、旧郵政省、旧建設省、警察庁)による ITS の実験モデル地区に選ばれた。
- ・ 当時利用者が少なかった循環バス路線(中村駅～自由ヶ丘線)を基に中心市街地から 3km 四方内を最大 15 分程度で運行できるデマンドバスシステムの実験運行を平成 12 年 4 月から同年 6 月まで行った。
- ・ 実証運行が利用者に好評であったため、平成 12 年 7 月から本格運行を始めた。

##### 【ITS モデル実験】

#### ■ 実現したサービス

##### サービス内容

##### 【デマンド型交通】

- ・ 利用者は希望乗車時間および乗降停留所を決め、電話で利用を申し込む。
- ・ 申し込み内容は、既存予約におけるデータ等を基にコンピュータ処理され、希望時間に近い乗車可能時刻が提示され、利用者は予約の成否を決める。
- ・ 停留所を既存の 28 から 57 にし、増設した中には病院内のロビーでバスを待つことができる所もある。
- ・ 運行時間帯は 8:30～11:00、12:00～14:30、16:00～18:00 である。
- ・ 運賃は大人 200 円、子供 100 円である。
- ・ 運行事業者は高知西南交通に委託されている。

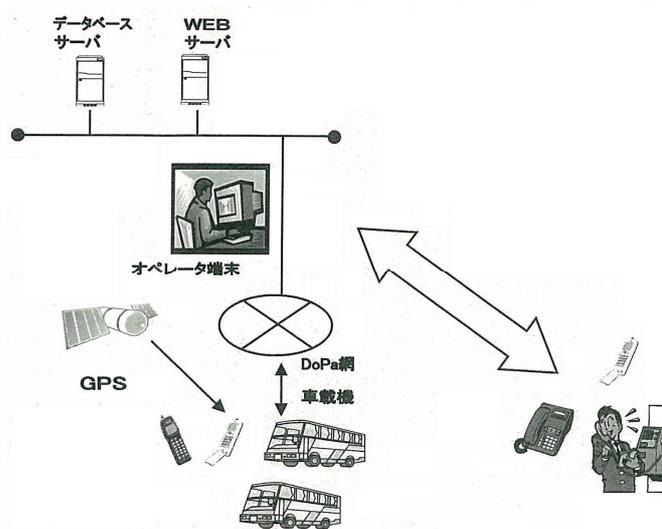


図. システムの概要

出典：四万十市資料

## ■ 効果と負担

### 効果

【利用者数の増加】

- ・ 旅客数の推移は以下のとおりで、導入前に比較して増加が見られた。なお平成 12 年度および平成 13 年度については、8:00～18:00(平成 12 年 6 月まで)あるいは 7:00～19:00(平成 13 年 9 月まで)と現在より長い運行時間帯を設定していたことから利用者数が多かった。

表. 利用者数の推移

	年度	1 日平均利用者数	記事
まちバス導入前	平成 11 年度	約 7 人	中村駅～自由が丘線
まちバス導入後	平成 12 年度	42.2 人	
	平成 13 年度	42.5 人	
	平成 14 年度	24.3 人	
	平成 15 年度	22.2 人	
	平成 16 年度	19.8 人	
	平成 17 年度	21.1 人	
	平成 18 年度	21.8 人	
	平成 19 年度	23.0 人	

出典：四万十市資料より作成

### 負担

【国負担】【都道府県負担】

- ・ 初期費用として 180,000 千円を国が負担し、実験後国から旧中村市へ無償譲渡した。
- ・ 通信費用は月に約 87 千円かかり、導入後 3 年間は県が負担した。

## ■ プロセスと調整

### 新しいシステムへの理解促進の努力

【調整:対住民】

- ・ 市民がデマンドシステムに不慣れだったため、広報やアンケートを通じて理解を高めるよう努力した。
- ・ バス停の数を実験前の約 2 倍にすることで、ドア・ツー・ドアに近いサービスとすることで、交通弱者の利便性の向上に努めた。
- ・ 病院、ショッピングセンター、ホテル等と連携し、施設内でバスを待つようにできる形とした。さらに、バスの到着時には館内放送を行うよう依頼し、利用者の利便を図った。

## ■ 創意工夫・知見・教訓

### システム負担の重さ

【教訓:費用負担のあり方】

- ・ 国のモデル実験により利便性の高いシステムが導入され、導入前に比べ利用者数が増加する等の効果が得られたが、運行開始から年数が経過し、老朽化のためシステムが停止する恐れがでてくる。
- ・ 更新のための財源確保は困難であり、他の廉価なシステムへの代替も含めて検討が必要となっている。

## ■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：四万十市企画広報課 電話 0880-34-1129